

## 第14章

# 吉井の歴史と文化財



吉井の位置

### この地域の小中学校

小学校：吉井北小学校、吉井南小学校

中学校：吉井中学校

## 第14章 よしい れきし ぶんかざい 吉井の歴史と文化財

### しせき 史跡とフルーツのまち

吉井は、長崎県で最も長い川である佐々川の中流域に位置しています。町は地域の中心部を流れる佐々川や、その支流の福井川流域の平地を中心に広がっています。佐々川の下流側は佐々町と、上流側は世知原と接しています。

昔は、世知原と同じく石炭の採掘が盛んでしたが、炭鉱閉山後は、果物の栽培に力を入れています。特に昭和初期から栽培が盛んなイチゴや、炭鉱閉山後に広まったメロンの生産が盛んで、「吉井イチゴ」、「吉井メロン」の銘柄で親しまれています。



やまびきロードから見た吉井地区

1 長さ21.9キロメートル。2位は本明川(諫早市)の21.1キロメートル、3位は相浦川の20.1キロメートル。

### ちけい 地形のなりたち

今から3千万年以上も昔、この地域は海底や陸地となることを繰り返しました。そして、海底などに積もった砂や泥が砂岩などの堆積岩となり、それが<sup>2</sup>地殻変動で盛り上がりました。岩の間に石炭や植物、貝の化石が入っているのはそのためです。

地盤が盛り上がると、水は低い方に流れて川を造り、地形を浸食していきます。そうして北松浦半島は一度平原になられました。そこに今度は溶岩が噴出して溶岩台地となり、これが再び川に浸食されて現在の姿となっています。



榎ノ岳

直谷城がある内裏山(標高167メートル)や、御橋観音裏の牧ノ岳(標高301メートル)は、周りが侵食されて残った残丘(3メーサ)です。直谷城は浸食によってできた切り立った崖を天然の城壁に利用し、砂岩が浸食されてできた洞穴は、原始の人々が住まいとして利用しました。地形の成り立ちが、地域の歴史に大きく関係しているのです。

- 2 佐々川衝上(さがわつきあげ)と呼ばれる地面が大きく波打つような大変特殊な断層が起きている。佐々町古川の佐々川西面の急な地形はその名残である。江迎川の上流部だった福井川は、この断層で断ち切られて佐々川に合流するようになった(この現象を「河川の争奪」という)。福井川の合流がなければ、福井地区は江迎町の一部になっていたかもしれない。
- 3 スペイン語で「机」という意味。頂上部が平らで、周囲が急斜面となっている場合が多い。佐世保市内の弓張岳や将冠岳も「メーサ」である。



吉井の地図

## ポットホール群

佐々川は地形を浸食していく過程で、ポットホール群も造っています。ポットホールとは、川底の岩の割れ目や窪みが水の流れて削られて広がり、さらに、その中に、石がまって研磨することを繰り返してできる円筒形の穴のことです。ポットホールは吉井中学校前の校門橋の上流側に集中していて、直径20センチメートル前後のものから、大きいものでは3メートルを超えるものもあります。自然が造ったものは、時として芸術以上に素晴らしいものがあります。



ポットホール

## 吉井は洞穴遺跡のまち

この地域の遺跡の特徴は、洞穴遺跡が多いことです。もちろん平地にも遺跡はありますが、表面の土が流されていて良い状態ではありません。ところが、洞穴は雨水などの浸食を受けにくいため地層が安定していて、大変古い時代から新しい時代まで順序よく埋まっていることが多く、考古学研究の上で重要な遺跡となることが多いのです。



福井洞窟



←郷土の人  
～吉井の  
考古学の  
先覚者・  
松瀬順一  
～

数ある洞穴遺跡のなかでも、最も有名な遺跡が、福井洞窟(国指定史跡)です。福井洞窟は、地元で長年考古学の研究を続けていた松瀬順一氏が発見したもので、1960年(昭和35)に第1回の発掘調査が行われました。これは、長崎県北部では最初の本格的な学術調査でした。

この調査で、地表近くからそれまで見たこともない土器が、旧石器時代末期の石器とともに発見されたのです。これは、それまで土器が無いと思われていた旧石器時代の末期に、既に土器が使われていたことを証明する画期的な発見でした。この土器は、表面に細かい粘土紐が貼り付けられていたことから「隆起線文土器」と名付けられました。この「隆起線文土器」は、泉福寺洞窟から「豆粒文土器」(第4章相浦谷参照)が発見されるまでは世界最古の土器でした。



福井洞窟の調査(第1次)

福井洞窟の発掘調査はこれまでに3回行われていて、13,000年以前の旧石器時代の遺物も発見されています。特に、地表から6メートルの深さにある最下層から発見された石器は、科学的年代測定では32,000年以前というデータがでていました。

2012年（平成24）2月からおおよそ1年をかけて、4回目の発掘調査が行われました。その結果は研究中ですが、旧石器時代の洞窟での生活の様子が明らかになろうとしています。



平成24年の福井洞窟の調査

吉井には、福井洞窟のほかに直谷稲荷神社岩陰（直谷岩陰）、不動明王谷岩陰、牧ノ岳洞穴、橋川内洞穴があって、いずれも縄文時代の住まいであったことが分かっています。また、吉井には各地に砂岩の露頭があるので、今後さらに洞穴遺跡が発見されることも十分に考えられます。



直谷稲荷神社岩陰（直谷岩陰）



不動明王谷岩陰



橋川内洞穴（市指定史跡）



牧ノ岳洞穴

## コラム～科学的年代測定～

考古学の調査では、放射性炭素を利用した年代測定が広く行われている。全ての生命体には共通して放射性炭素 $^{14}\text{C}$ という物質が含まれている。この $^{14}\text{C}$ は生命が生きる間は一定量に保たれているが、死亡(植物の場合は枯れたり、焼かれたりして炭となった状態)すると約5,730年の周期で半減していくという性質を持っている。つまり、残っている $^{14}\text{C}$ の量から逆算することで年代が分かる仕組みである。

この年代測定には、遺跡から出土する炭が必要なので、考古学者たちは発掘調査のときに行きたくらい炭を採取する。また、この測定方法が使われ始めた頃は、測定にはかなり大きな炭が必要で、年代も30,000年前後までしか測定できなかった。しかし、最近では技術の進歩によってごく微量でも測定可能となっており、さらに古い時代まで測定できるようになった。

弥生時代(約2,000年前)から平安時代(約1,000年前)にかけての遺跡は、福井洞窟や直谷岩陰から弥生時代の土器が出土している以外は見つかっておらず、どこにどのような人たちが暮らしていたのかは分かっていません。この時代は、稲作を中心とした農耕を行う時代ですから、平地が少ない吉井は人が住みにくかったのかもしれない。

## 志佐氏が直谷城を築く

平安時代から鎌倉時代にかけて、長崎県北部から唐津地方には「松浦党」と呼ばれる武士たちが現れ、地域ごとに土地を支配していました。この松浦党の中心的な武士だったのが、宗家松浦氏でした。宗家松浦氏は平安時代の終わり頃に、摂津渡辺荘(今の大阪府)と兵庫県の間にまたがる地域から松浦地方にやってきた、源久を始祖とするといわれています。伝統的に一字の名を名乗っていたため、ほかの武士たちの中にも宗家松浦氏にならって、一字の名を名乗るものが現れました。

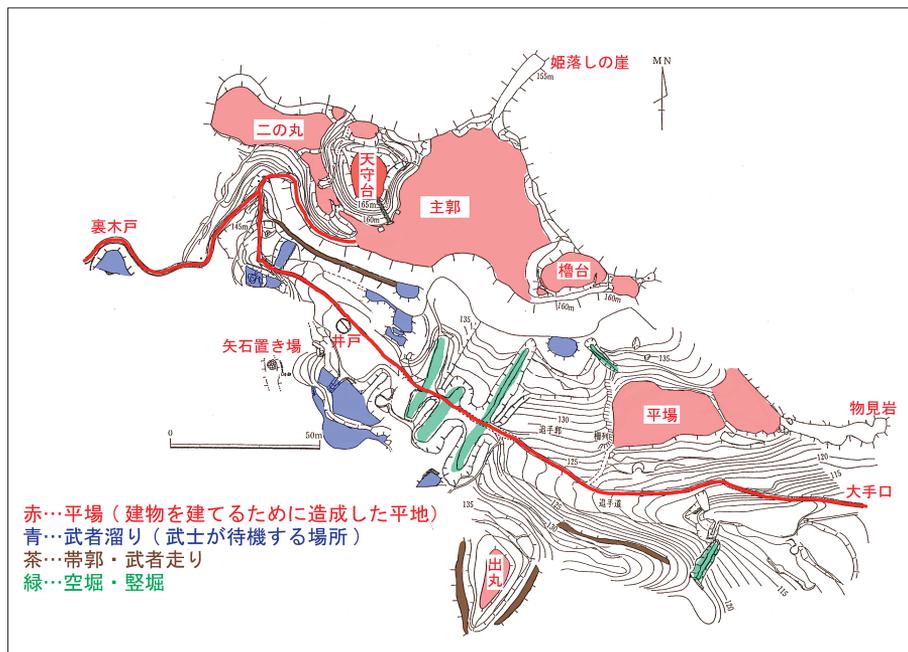
4 鎌倉時代に登場する武士団だが、自らを「松浦党」と名乗ったことはない。中央から見て、「松浦地方にいる武士の集団」という意味で「松浦党」と呼んだのが始まりらしい。小さな武士団が乱立しており、敵対あるいは友好関係は複雑である。そのため時として同盟(一揆契諾という)を結ぶことを繰り返している。ある事件に対して同盟を結んでも、事件の解決で同盟関係は解消した。

この頃、吉井、世知原、志佐(松浦市)を領地としていたのが志佐氏でした。当時の武士たちは領地の地名を名乗るのが一般的で、志佐氏は宗家松浦氏の3代清の次男貞が、この地域の領主となったのが始まりといわれます。

その志佐氏が本城としたのが直谷城です。直谷城は福井川沿いの平地を見下ろす内裏山の山頂にあります。直谷城をいつ、誰が築いたかについてはいろいろな説があり、はっきり分かっていませんが、志佐氏初代の貞が13世紀の中頃に築いたという説が最も有力です。



直谷城跡遠望



直谷城縄張り図

城のある内裏山は周囲が切り立った崖に囲まれていて、天然の地形を城の守りとしています。中心部には南北約40メートル、東西約50メートルの主郭があり、その東と西にはそれぞれ「天守台」、「櫓台」と呼ばれている高台があります。主郭の周囲には主郭を護る二の丸や帯郭、武者溜り、矢石置き場、裏木戸などが配置され、大変複雑な構造になっています。吉井北小学校脇の谷を登る登城路(大手道)には、4重の土塁と空堀があつて守りを固めています。また、城内には井戸も残っています。



直谷城主郭跡



城内に残る井戸

1988年(昭和63)から行われた発掘調査では、主郭跡から、柱穴や排水溝とともに、多数の中国製の焼き物を含む生活遺物が出土しました。また建物の大きさや数は分かっていますが、ここで志佐氏と家族、そして家臣たちが暮らしていたことは確かなようです。

直谷城は、城の城主と歴史が明らかで、保存状態も非常に良く、山城の遺構として大変重要なため、長崎県の史跡に指定されています。また、城の大手口近くにある直谷城主の墓石群は、佐世保市の史跡に指定されています。



直谷城主の墓石群

### コラム～内裏山の由来～

直谷城のある山は内裏山と呼ばれていて、直谷城の別名も内裏山城という。「内裏」とは天皇の住まいのことだが、この地名の由来については次のような伝説が残っている。

平安時代末期、天下の覇権を巡って源氏と平氏が激しく争っていた。そして1185年(文治元)の壇ノ浦の戦いで平氏は滅亡し、源氏の政権である鎌倉幕府が誕生することになる。この壇ノ浦の戦いのときに入水自殺した安德天皇(当時8歳)が実は生きていて、直谷城を仮の住まいとしたという。そのため城のある山を「内裏山」と呼ぶようになったという。吉井にはこの話以外にも草ノ尾集落などに平氏の落武者伝説が語り伝えられている。

### 直谷城の攻防

1495年(明応4)に、直谷城は大村氏と佐賀の龍造寺氏の連合軍に攻められて、城主の志佐純昌は五島に逃れ、志佐氏は一時滅亡します。

その後、平戸松浦氏から城主が入り、代わって志佐氏を名乗りました。そして1564年(永祿7)、志佐氏の跡継ぎを巡って志佐純量(前城主の長男)と純意(前城主の弟)が対立します。この争いに志佐氏の領地を狙っていた平戸松浦氏と、島原の有馬氏が割り込んできました。結局、純量がまだ11歳だったこともあり、平戸松浦氏の支援を受けた純意が城主となり、純量は母親の実家である有馬氏の下に身を寄せました。



戦いに備えて集めた「矢石」  
(投石用の石)

城主となった志佐純意は、その後、有馬氏の下で成長していた甥の純量を直谷城に呼び戻して城主の座を譲りました。ところが、純量は乱暴な振る舞いが多かったため、1581年(天正9)に平戸松浦氏から追放されてしまいました。有馬氏の下に逃れた純量はすぐさま直谷城を奪い返そうと、その年の暮れに有馬氏から300人の兵を借りて直谷城を夜襲し、占領してしまいました。



箭瀬祝原の千人塚

一時は城主の座に復帰した純量ですが、すぐに純意を慕う家臣や、平戸松浦氏から攻められて直谷城を捨てざるを得ませんでした。そして、島原に逃げ帰る途中に、世知原の箭瀬祝原で世知原修理と都蔵寺部部の軍勢に攻撃され(第15章世知原参照)、純量はこの戦いで戦死したとも、島原に逃れて自殺したとも伝えられています。難攻不落のように見える直谷城ですが、このように3度も落城したのです。

この戦いの後、平戸松浦氏の家臣となった志佐純意は、1587年(天正15)に豊臣秀吉の九州平定に参加し、さらに松浦隆信の軍とともに朝鮮に出兵しました。ところが、城主純意は陣中で病死し、嫡男(跡継ぎの男子)の純高も朝鮮で戦死して、志佐氏は断絶してしまいました。この後、直谷城の城主はいなくなり、志佐氏の領地は平戸松浦氏の領地となりました。

### コラム～姫落としの伝説～

直谷城主郭の北側に、通称「姫落とし」と呼ばれている高い崖があり、次のような話が伝えられている。

直谷城主となった志佐純量が、平戸松浦氏により追放された時、純量は幼い姫だけは助けようと、姫を白布で包んで崖から降ろそうとしたが、姫は落ちて死んでしまったという。(この姫を祭ったのが、前岳の稚児神社といわれている。)

その後、志佐純量が有馬氏の援軍を得て直谷城を奪還した時、今度は城主だった志佐純意が妻を鏡櫃に隠し、七反の布で作った綱で崖を降ろして、近くの寺に避難させたという。

戦国時代の山城には、しばしばこのような話が伝えられている。弱肉強食の戦国時代にあつて、武将たちが、せめて妻や娘だけは助けようとしたことが、このような伝説となって伝えられたのだろう。



イラスト：木寺十郎

### コラム～志佐氏の滅亡は陰謀ではないか～

戦国時代末期から江戸時代初期にかけて、各大名の家臣団に加わった有力武将は、それぞれに領地を持っていた。そのため全体的に領地は広くなったものの、大名自身の収入は増えなかった。つまり経済基盤が弱かったのだ。

そのため、大村氏は直轄地(蔵入地)を増やすために一門を追放(御一門払い)している。平戸松浦氏の場合、志佐氏の滅亡により直轄地が増加している。志佐純意の病死や志佐純高の戦死の陰には、平戸松浦氏の陰謀があったのではないだろうか。

## 焼き物の窯ができる

戦国時代から江戸時代に移る頃に、焼き物の窯が福井に開かれました。直谷地区にある福井窯です。福井窯はいつ、誰が開いたのかは詳しく分かっていませんが、窯跡周辺から出土する陶器のかけらの特徴から、16世紀末から少なくとも1630年頃に、唐津焼系の焼き物を焼いていたことは間違いないようです。



福井窯跡の発掘

1592年(文禄元)、豊臣秀吉が行った朝鮮出兵(文禄・慶長の役)で動員された唐津の戦国大名波多氏を取り潰され、その保護下にあった岸岳の陶工が離散するという、いわゆる「岸岳崩れ」が起きました(第11章三川内参照)。そして、岸岳を離れた陶工たちが有田や三川内に窯を築いて、唐津焼系の焼き物を焼き始めました。福井窯も岸岳を離れた陶工が開いた窯かもしれません。

2007年(平成19)に確認調査が行われ、窯跡1基が見つかりました。窯跡は善潤寺の西側斜面に、宅地造成で大きく削られながらも、わずかに残っていました。

5 天下統一を果たした豊臣秀吉が、明国(中国)を征服しようと朝鮮半島に出兵した事件。1592年(文禄元)、1597年(慶長2)の2度行われた。出兵した諸大名は陶工など多数の技術者を連行した。朝鮮では壬申・丁酉の倭乱と呼ぶ。

## 江戸時代の吉井

戦国時代末に北松浦半島の統一に成功した平戸松浦氏が、江戸時代にそのまま藩主となったので、吉井は平戸藩の一部となりました。当時の吉井は福井村と吉田村に分かれていました。福井村は世知原の代官所に属していて、吉田村の方は、佐々の市ノ瀬村の代官所に属していました。

江戸時代の吉井はほとんどの人が農業で生活していました。そのため、豊作を祈る行事が盛んに行われました。上吉田地区には、豊作と家内安全を祈り、それが成し遂げられたことを祝う収穫儀礼「お蔵入れ」が行われています。毎年12月10日に行われているお祭りで、「霜月祭り」、「おかん祭り」とも呼ばれています。ユーモアたっぷりのほのぼのとしたお祭りで、「記録保存等の措置を講ずべき無形民俗文化財」として国の選択を受けています。



収穫儀礼「お蔵入れ」

また、「お蔵入れ」に似た行事として、蹄瀬地区には「牛神祭り」が、乙石尾地区と橋川内地区には「猪神祭り」が伝わっていて、佐世保市の無形民俗文化財に指定されています。

## 吉井の近代化

明治時代に入ると、吉井や世知原などには豊富な石炭があることが分かり、各地に炭鉱が開かれました。そして、石炭を運ぶために鉄道や道路の建設も行われました。

佐世保が軍港になると、さらに道路や鉄道の建設が進み、大正時代の終わり頃から昭和初期にかけて、佐々川や福井川に多くの石橋が架けられました。美しい二重アーチを持つ樋口橋に代表されるこれらの石橋群は、伝統的な手法を多く用いた世知原の石橋群とは異なり、そのほとんどが近代的な手法で架けられているという特徴があります。



樋口橋(市指定有形文化財)



前岳橋(市指定有形文化財)

鉄道は、1933年(昭和8)に世知原～吉井～佐世保間に軽便鉄道が開通していましたが、軍事物資や商品運ぶために北松浦半島を一周する鉄道が必要となったため、1933年(昭和8)から工事が始まり、伊万里～吉井間は1944年(昭和19)に開通しています。潜龍ヶ滝駅と吉井駅の間にある3基のコンクリートの鉄道橋はこのとき架けられたもので、物資不足のため、鉄筋の代わりに竹が使われたといわれています。これらの橋は完成から60年以上経った現在でも、立派に役目を果たしており、2006年(平成18)に国の登録文化財となりました。



福井川橋梁



吉井川橋梁

6 2005年(平成17)に、本当に竹が使われているか確かめるための調査が行われたが、残念ながらこのときの調査では竹は確認出来なかった。

時代	出来事
旧石器時代 縄文時代	約30,000年前 福井洞窟に、この付近で最初の人々が住み着く。 約10,000年前 隆起線文土器をもつ人々が福井洞窟に住む。 約8,000年前 橋川内洞穴や福井洞穴が狩猟の拠点になる。
鎌倉時代 1200年頃 室町時代	志佐氏の祖、貞が宗家松浦氏より志佐、福井などを分割相続する。
1349年(正平4) 戦国時代	直谷城が建て増しされ、牧ノ岳の牧場ができる。
1495年(明応4)	直谷城が大村と佐賀の龍造寺の連合軍に攻められ、志佐氏は滅亡する。 田平の峯昌(平戸松浦氏出身)が志佐氏を相続して志佐純元を名乗り、直谷城に入る。
1581年(天正9)	直谷城の攻防。志佐氏は平戸松浦氏の傘下に入る。
1587年(天正15)	志佐純意が豊臣秀吉の九州平定に参加、領地を安堵される。
1592年(文禄元)	志佐純意が朝鮮の役に参加し、病没する。子の志佐純高は戦死し、直谷城は廃城となる。
江戸時代 1625年(寛永2)	志佐重忠(純高の子)が松浦家国家老となる。
近代 1874年(明治7)	吉田小学校が吉田村の庄屋宅にて開校。 福井小学校が福井村の庄屋宅にて開校。
1889年(明治22)	吉田村と福井村が合併して吉井村となる。
1898年(明治31)	松浦炭鉱鉄道開通。
1923年(大正12)	樋口橋完成。
1933年(昭和8)	佐世保鉄道、佐世保～吉井間開通。国鉄伊佐線の工事始まる。
1944年(昭和19)	国鉄伊佐線、潜籠～吉井間開通。
1945年(昭和20)	国鉄伊佐線全線開通。国鉄松浦線と改称。
現代 1951年(昭和26)	町制施行。吉井町誕生。
1960年(昭和35)	福井洞窟の第一次発掘調査が行われる。(佐世保市内で初の学術発掘調査)
1978年(昭和53)	福井洞窟が国の史跡に指定される。
2005年(平成17)	佐世保市と合併。佐世保市吉井町となる。